

議長定例記者会見 会見録

日時：令和5年11月24日 10時30分～

場所：全員協議会室

1 発表事項

令和5年度 第2回三重県議会「議員勉強会」を開催します

2 質疑項目

- 令和5年度 第2回三重県議会「議員勉強会」について
- 三重県議会の活動ベスト10について
- マニフェスト大賞について
- 執行部の組織体制について
- 知事について

1 発表事項

○令和5年度 第2回三重県議会「議員勉強会」を開催します

（議長）おはようございます。ただ今から11月の議長定例記者会見を始めさせていただきますと存じます。それでは発表事項に入らせていただきます。本日は、令和5年度第2回三重県議会「議員勉強会」の開催について発表させていただきます。お手元の資料の発表事項1をご覧ください。県政を取り巻く諸課題の解決に向けまして、議員間における共通認識の醸成とさらなる理解の向上につなげるため、本年度2回目の議員勉強会を開催いたします。日時は12月21日木曜日の13時30分から15時までとします。場所は全員協議会室で開催します。講師は株式会社三井不動産ホテルマネジメント代表取締役社長の雀部優様でございまして、演題は、「質が高く、持続可能な観光地づくり」への「王道」と「近道」～「総花・満点主義」VS「一点突破主義」～でございます。講師のプロフィールにつきましては、添付のチラシをご覧ください。ありがたいなと思います。令和4年度に議決いたしました「みえ元気プラン」では「7つの挑戦」の一つに「三重の魅力を生かした観光振興」を位置付けたところございまして、また、今年度末には次期三重県観光振興基本計画の議案提出が予定されております。こういったことや議員アンケートの結果等を踏まえまして、今年度は観光をテーマに議員勉強会を開催しております。10月4日に開催しました第1回議員勉強会では、地域の観光振興に関わるさまざまな調査や計画づくりに関わってこられました有識者の方から、その経験等を踏まえたお話を伺いました。横浜商科大学の羽田耕治先生でございました。今回は、県内リゾートホテルの経営を経て、現在、国内外の多くのホテルの経営を担われているとともに、観光庁等の協議会委員を歴任され、観光施策に通じら

れておられる雀部様から、質の高い観光地づくりに必要な方策等についてご講演いただく予定でございます。この勉強会はどなたでも傍聴可能でございますので、関心をお持ちの方はぜひお越しいただきますようお願いしたいと存じます。最後に報道機関の皆さまにお願いが1点ございます。今年も一年間の議会の主な活動を振り返る「あなたが選ぶ！三重県議会の活動ベスト10」の投票が11月10日から始まっております。投票期間は12月8日までとなっておりますので、報道機関の皆さまにおかれましては、より多くの県民の方々に投票いただけるよう、PR等にご協力をお願い申し上げたいと思います。私からは以上でございます。

2 質疑応答

○令和5年度 第2回三重県議会「議員勉強会」について

(質問) 勉強会のことですが、この講師の雀部様は、これまでの議員勉強会でも話されたことはなくて初めてになりますか。

(議長) 前は、計画段階で、日本旅行さんでの経験を生かされて、現在でも大学の方で観光戦略とはどういうものかという、そもそもの基本的なスタンスを勉強させていただいて、今回は実践というんですか、やはり今までのやり方ではいけないのではないかと、こういう手法があるよとか、具体的に実効のあるポイントをご紹介いただけるのかなと期待しておりまして、今までどおりではいけない、何かどこかに切り返しというか新たなアイデアとか、そういうものを提案していただけるものかなと期待をします。雀部さんは初めてです。

(質問) もう一点、この雀部様のプロフィールを拝見しますと、ラグジュアリーリゾートの開発の推進とございまして、リゾート開発をご専門にされてるのかなと拝見しますが、県議会としても県としてリゾート開発を推進した方がいいのではないかと、そういった問題意識もあって、この方を選ばれたということでしょうか。

(議長) 三重県内にはいろんなところがありますので、リゾートを含むそういうことをお話いただけると期待します。

(質問) 三重県でも観光戦略というのは力を入れてると思いますけども、議長としたらどういったところに課題があって、どんなふうになっていけたらとご考えでしょうか。

(議長) 観光戦略は、もうこれまでずっとやってきてるんですけども、当然

全国的な比較をしたり、三重県はそもそもの観光地はありますけれども、やはり他の都道府県と比べて、いろいろとお客様の取り合いという失礼ですけども、やはり観光旅行者がどのようなメニュー、コースを作るかとか、そういうところに大きく影響されるように、最近聞いておりますし、インバウンドにおいても、戦略的に、東北地方であったり、九州であったり、やはりそういう特色あるようなところがヒットしてるのではないかなと。それから、京都大阪のように、伝統的なものを中心とした話、体験できるようなものとかあるんですけども、三重県は比較的ちょっと中途半端になったり、飛行場が遠かったり、コースを選びにくかったり、交通の便などがいろいろと言われておりました。そういうところは若干、致し方ないところもあるんですけども、それを乗り越えて、魅力発信できるということでない、お伊勢さんであったり鈴鹿サーキットがあるということは、我々は分かるんですけども、やはりインパクトというか、そういうのを工夫しないと。観光戦略はやはり政策的に県がすることとなりますので、民間の方と相乗効果をねらわないといけないのではないかなと、こんなことが課題だと思います。

- 第二県政記者クラブも含めてお願いします -

○令和5年度 第2回三重県議会「議員勉強会」について

(質問) 雀部さんを講師に呼んだのは、どっかで何か繋がりがあるんですか。伊勢志摩をやったから。

(議長) 雀部さんは、伊勢志摩リゾートマネジメントで、そういう関係で人選というのか。鳥羽国際・NEMU RESORT運営会社ですね。伊勢志摩リゾートマネジメントですか。代表取締役社長を経て、現在もいろんなホテルの経営も担っておられる方ですので。

(質問) だから伊勢志摩リゾートへ出向されてたときに、伊勢市選出の県議会議員の方とお知り合いになって、その方からの推薦等で今回選んだということではないですか。

(議長) 推薦というのは特に具体的にはありませんけれども、いろんな方々が想定された中で、やはり適任者でないかなということ、事務方とも相談して決定させていただいたところですよ。

(質問) 事務方が一応ピックアップして、その中でこの人どうですかと。

(議長)それは事実ですね。AさんBさんCさんといろんな方々がおられる中で、日程や時期、またそういうタイミングとか、最適者と判断しました。

○三重県議会の活動ベスト10について

(質問)あと「県議会の活動ベスト10」ですけど、これに今回、早稲田大学マニフェスト研究所からもらったマニフェスト大賞が項目として入っていないのはなぜですか。

(議長)優秀賞をいただいた時点でこの案ができていましたので、ちょっとタイミング的には公表する前の段階でしたので、優秀賞として表現しております。その後、大賞となったわけですので、それを選ぶ方は、その後の時点修正はしてませんけれども、そういうのを含めて投票していただける一つになるかどうかと思います。

(質問)含めてっていうのは、マニフェスト大賞もらったということも含めて投票してもらっていいってことですか。このベスト10の中に当然入る話じゃないですか。マニフェスト大賞もらった時にこれ入れてましたよね、今回じゃないけど。前もらったことがありますよね、これって今回初めてじゃないじゃないですか。平成22年に三谷さんが議長の時にもらってますよ。その時の活動ベスト10とかそういうものに入ったりしてますやんか。だとすれば今回も本来入っててしかるべきだけど、間に合わなかったとかいうことでやるんですけども、今議長がおっしゃったように、これも入れて投票してもらおうということとは、マニフェスト大賞の対象に入れていいってことですか。

(議長)そうですね。現段階では、マニフェスト大賞について評価がいただけるかどうかということになりますけども。

(質問)今日参加者が少ないけど、とりあえずこれ活動ベスト10でこういうことを呼びかけ県民にするからってことで、さっき我々に発表されたわけじゃないですか。その時に中身自身が曖昧だと我々も記事書きにくいんで、はっきりさせときたいんですけど、少なくともこのマニフェスト大賞も項目で入れて選んでいいわけですか。

(議長)そうですね結構です。

(質問)いいんですね。

(議長) はい。

○マニフェスト大賞について

(質問) このマニフェスト大賞が先だつての議会改革推進会議で、要は周知がされてなかったと。申請することもそれから賞もらったことも新聞報道で知ったという議員もいらっしたんですけど、その辺はどうなっていますか。

(議長) 優秀賞をいただいたからこのリストに上げるということに至ったわけで、すでに三重県議会は過去から、去年も一昨年も、そういう応募をしている、継続的な対応をしている中で、ノミネートされなかった年も、去年も一昨年もそうだったんですけども、それはさすがにリストアップをしてないんですけども、今年は幸いに優秀賞にノミネートされたということが、評価されたという結果を見て、議会に報告し、最終に大賞に至ったとこういう経緯でございます。

(質問) ちょっと論点ずれてるんですけど。毎年申請してるから今年も出さるうという想定でいくのと、これは年度年度のものだから、今年も出しますよということは周知する必要が普通はあると思います。だからそれがなかったからこそ、議会改革推進会議の副会長がかみついたわけじゃないですか。副会長たる者が、まして今、三谷会長が体調悪くされて、ちょっと出てきていらっしやなくて、森野さんと中嶋さんという二人の副会長が回していますが、そのうちの一人の副会長が、申請したことも、それと受賞したことも報道で知ったみたいなの話ってというのは、本来的にはおかしいと思いませんか。

(議長) 出し方のことですので、当然もう少し、出す段階から相談をしたらというご意見ですけども、これは去年も一昨年も過去からそういう経緯があったので諮ってなかったということもありますし、さすがに今から思えばその時点で、出す出さないことも含めて、今後はそうしたほうがいいのかというようなご指摘があればそういうふうに考えています。代表者会議でも報告したときに、結果が結果でしたので、その段階ではそのところのご指摘がなかったもので、報告にとどめたということです。去年も一昨年もそういう経過、22年の時も確かそうだったかなという過去の経緯を踏まえての取り組みでしたので、今回そういうご指摘がもしあればそういうふうに募集応募段階から議会に諮った方がいいということも今後検討したいと思えます。

(質問) 過去を持ち出して申し訳ないんですけど、平成25年に四港議会でマニフェスト大賞に申請出して、受賞もして、結局県議会の方でその代表者か何

かにかみつかれたのは中森さんですよ、水谷正美さんに。それは周知されてなくて勝手に進めたみたいな形になって、結局受賞したやつを辞退したじゃないですか。水谷正美さんはマニフェスト研究所、東京まで行って、そこで辞退をされたんだけど。以来しばらくマニフェスト大賞、県議会は受賞できてないわけやけど、今回久しぶりなんですけど、その経緯からいっても中森さん自身があの時周知されてなかったってことでご不満を言われたわけだから、今回ある程度不満が出て、これはこれでやっぱり議会事務局含めて議事運営のやり方がまずいんじゃないですか。

（議長）当時を振り返りますと、あの時はすでに三重県議会は経験があるというのか、何回も度重なっているとか、醸成されていた。それで三重県議会は、取り組みが進んでいたと記憶しております。四日市港管理組合というのは組織が違いますので、それが四日市港管理組合議会で議論が一つもなかったということ。それから、正副議長で相談がされてなかったということ。それから、当時の四日市港管理組合の議会事務局もあまり承知してなかったということなどなど含めて、それはさすがに管理組合といえども、議長さんお一人で行動されたことに対しては、やはりちょっと共有した方がいいのではないかとということをご指摘させていただいた、私も議員のメンバーですので。当時の新政みえさんにも相談して、新政みえさんも、それはちょっとどうかなという同意を得たので、結果的に取り下げさせていただいたと理解しております。

（質問）翻ってマニフェスト大賞そのものは、そんなにありがたい賞なんですか。その辺はどう思われますか。

（議長）これは私の個人的な意見になってしまいますので、それはちょっと言いにくいんですけども。すでに全国の多くの自治体から応募されているという様子を伺ったり、各部門がそれぞれ分かれて非常に関心の高い行政機関や地方公共団体があるということが、最近そういうこともありますので、それはそれで一定の、全国に広がった評価をする団体と思っております。三重県議会がとか、誰々さんがとか、そういうことではなく、第三者機関が認めていただくということですので、こちらが何かアクションを起こしてというようなものではなく、そういう評価をいただけるというのはありがたいのかなと受け止めてます。

（質問）過去の経緯からいくと、3代前の北川正恭さんという知事だった方が辞められて、早稲田の教授になられて、それで早稲田大学マニフェスト研究所を作られたと。マニフェストっていうのも自分が提唱者だと宣伝されて、全国

的に確かにマニフェストは北川さんだって話になって、次の年かなんかの流行語大賞でもグランプリを取りました。自民さんは、もともと平成21年の時の衆院選で負けた時に、マニフェスト選挙やられてそれで負けたっていうんでマニフェストって言葉を以降も使っていないじゃないですか。選挙の時には政策集って言葉で書いてますよね。それからいくと、いまだにこのマニフェスト大賞というのは、毎日新聞社との共催ですけど、そのところのマニフェストっていうことは生きたままじゃないですか。それは自民党議員として抵抗はないですか。

(議長) 抵抗というよりも、それを政治的にその組織が何か動くということであれば抵抗感もありますけども、今となれば、毎年そうして継続的にされているという組織であって、何ら他の都道府県からも問題視をされていることも聞いてませんし、自民党としてもそんな話を私の方には伺ってませんので、それは粛々とされているということです。それは特にこだわることはないのではないかなと思っています。

(質問) 今回の受賞理由を拝見すると、行事日程とか議事運営が事前にある程度決められてて、それは県民にも周知されてるというところを評価したという話なんですけど。4年間の評価でいけば、この4年間に、今回今年の春に県議選がありましたけど、その間の前期の4年間を評価したらいいんですけど。その4年間に、議員定数を51から48にしてるじゃないですか。この定数問題と選挙区に関しては、三重県議会はかなりもめたし、県内の市町議会からもこのやり方はおかしいと言って、四日市市議会は署名をもってして反対もしたりしてたし、その騒動があったにも関わらず、この4年間の評価でマニフェスト大賞にあたるっていうのは、ちょっと私なんかは非常に疑問符を付けますけど、その辺は議長は全然お感じにならなかったですか。

(議長) 議会運営、定数問題につきましては、それはそれで、その時点その時点で、議会の中で議論をしたという経緯でございます。それが良いとか悪いとか、場合によったらもめ事とか、そのように受けとめる方も、もしかしたらおられるかも分りませんが、ただその時点で適切な判断をしながら現在に至っているということに尽きるわけでございます。今回いただいた賞というのは、そのことについては一切触れられてません。全体の我々議会として、計画、そして、それを実践し展開をして、それから最後また来年度へ申し送る、中身が、議会活動そのものの計画が、Plan-Do-Seeですか、そういう形の流れをしっかりと8年前から4年間、4年前から4年間ということで、それを改善してきたということが評価されたと受け止めておりますので、一切その定数問題とは違

う視点での評価をいただいたと思ってます。

（質問）多分堂々めぐりになるからもうこれ以上聞かないですけど、杉本副議長は、その辺、4年間で評価されて、あの中には定数問題も入ってたけど、それが評価対象で、何にも論じられなくて、議事日程等が明確になったりとかそこだけの評価ということで大賞がおりたということについてはどう思われますか。

（副議長）プレゼンテーションもさせていただいたんですけども、こちらが発表させていただいた内容は、評価サイクルを単年度で自己評価を積み重ねながら、4年間で評価サイクル回す、その仕組みが評価されました。この単年度の評価サイクルも、それから4年間の評価サイクルも持ちながら8年間やってきたという議会は、全国でやはりまれということなんだろうと私は思います。なので、定数の問題とか、そういう中身ではなくて、この評価サイクルがしっかりと定着しているっていうところが表彰のポイントだったとその場でも評価をしていただきました。やはり議会改革を持続的に継続していくには、こういった仕組み化することが大事だという評価をいただいたところです。

（質問）プレゼンは杉本副議長がやられたんですか。

（副議長）させていただきました。

（質問）議長じゃなくて。

（副議長）議長がちょうどその時、他の公務と重なっておられましたので、代わって行かせていただきました。

（質問）マニフェスト大賞そのものの賞の存在についてはどう思われますか。新政みえさんとはもともとゆかりの深い賞ですけど。

（副議長）私も、初めて行かせていただいて、応募総数が3,088。これはこういう自治体の取り組み、それから各団体の取り組みについては、全国一の応募総数だとお聞きをして、3,088の中から8部門40の団体が、優秀賞ということでその場に集まり、40のプレゼンを全部聞かせていただいたんですけども、素晴らしい取り組みが他のところでありました。私自身はとても勉強になりました。できるならば、傍聴者として来年とか、その場に行けたらいいなというような思いも持ったところでございます。その40の中から最優

秀ということで今回選んでいただいて、他にも素晴らしいものがたくさんあったので、思わず、三重県が選ばれるのか？と思ったのは本当の実感なんです。でも冷静に考えると、長年にわたって評価サイクルをまわしている議会っていうのは、本当に少ないんだということも分かったので、やっぱり今回は、長年の議会改革、三重県の議会改革推進会議が中心となって取り組んできた取り組みが評価されて、誇らしく思いましたし、よかったなと思いました。

（質問）40のプレゼンというのは一日でやられたんですか。

（副議長）はい。一日なので3分時間厳守でした。事務局とも議長とも相談させてもらって、かなり精選してポイントを絞って3分間で発表させていただきました。

○執行部の組織体制について

（質問）次に発表以外で、議長にお伺いしますけど、22日、一見知事も議会で、今回の職員の贈収賄等を謝罪されたんですけど、そのあと臨時会見もされたりしてるんですが、改めてその辺のことを、今春、一見さんが作った組織、要は総務部と政策企画部中心のトップ組織を作って、あとそこにぶら下げたという従来のフラット化の体制を変えた組織づくりをやってるわけですけど、その辺の、逆に言ったらきしみがあって、こういうのが続くんじゃないかと思われませんが、その辺議長はどういうお考えですか。

（議長）この収賄事件の。

（質問）収賄事件だけじゃなくてそこが起る原因です。公文書紛失とかいろいろ事務ミスも重なってますやん。それは結局は組織に問題がある部分もありますやん。知事の行動そのものの問題があると私は思いますけど、ただしそういう形で謝罪されたことについて、組織的にはこの春から作った体制について、議長は何かお考えありますか。

（議長）そもそもこの収賄事件に関しましては、報道を受けて私も驚きということか県民の信頼を大きく失墜する、議長としては本当に遺憾と、残念だったと思います。あってはならないことだと思います。当局においても捜査に協力していただいてしっかりと真相であったり、事実関係をしっかりと確認をしていただきながら、県において二度とこのようなことのないように対応していただきたいなと思ってるところでございます。組織とか、こういう事件が発生しないようなことは当然、それぞれの職員お一人お一人のモラルの問題であったり、

基本的には言うまでもないということなんですけども、やはりこういうことになったということは、どこかに課題があるのかなと、チェック体制であったり、そういうところにやっぱりしっかりと洗い直していただいて、そういうことのないようにと思います。全国にこういう収賄事件というのはないことはないんですけども、本当に一番恥ずかしい事件というか、県民やそれぞれの住民に、税金をそういうようにすることは、行政であってはならないと思っております。

（質問）贈収賄も当局側の不手際で、別に議員さんから贈収賄が出たわけじゃないんで、議会ではなくてあくまでも当局じゃないですか。執行部がそういう形でここところ、さっき申し上げたような公文書の紛失であるとか、それとか個人情報誤発信であるとか、いろいろ事務ミスが今年になって重なって、なおかつこういう贈収賄事件もでてきたと。一見知事は、令和3年の7月ぐらいに金を受け渡すって約束したってということで、自分がまだ知事になってないと、9月に就任されたんで、とおっしゃいますけど、会社自身がいろいろ同じ方式で落札してる水道事業関係の落札してるのは、少なくとも今の一見知事体制ができてからの年度のものも入ってるんで、これを前知事の責任とかいう形で言い逃れできないと思うんですね。それからいくと、原因はどの辺りに議長があると考えですか。

（議長）そういう癒着になってはいけないということが基本となりますし、入札制度そのものについてはシステムの問題ですので、予定価格があって、総合評価方式という方法論になります。これは行政指導でどこまで事業者に対して行政が関わるのかということなりまして、当然そういうことになってはいけないから私の知る限りですけど予定価格を事後公表、それから事前公表もあったということに対して、金額的にその点については少し改善されたと聞いてました。しかし予定価格だけで決めると、落札業者が決まっちゃうということもありますし競争性がない。質の高いものを求めるためには、金額以外のもので評価をするということが、これまで総合評価という評価システム変わったということです。よってその総合評価の中身については公開して、地域貢献度は何点、何々の技術者が何点というのを、オープンにしながら、そういうような癒着で変わったり、そういうことになってはならないというような方法の方が望ましいのではないかと、このように私は思っております。だから今後こういう請負工事発注に関わる問題点については、癒着があってはならないんですけども、癒着があってもそこに結果的にそういうことが歪められるということが問題であって、歪められないような方策は、今後とも改善していかなくてはならないのかなと思いますね。

(質問) だから知事が新しく変わった時っていうのは、どういう県庁の組織づくりするかっていうのは新しい知事のテーマになって、平成23年に前知事の鈴木さんが知事になられた時も、鳥羽港の工事改ざん問題ってのが出て、これはその前の知事の時の発端で起きた事件ですけど、ただし前の鈴木知事が1年目から県庁にあんまりいなくて、いろんな県内市町村とか東京行ったりとか、その辺のところで軸が定まらないから、県庁組織内に緩みがあるんじゃないかというふうなことを、県議会の方で一般質問等で突かれたじゃないですか。それからいったら、一見さんは令和3年に就任されて、9月、それから2年経ってですよ、いまだに29市町首長との一対一対談を終えてないし、何かって言ったら結局、東京のご自宅って言ったら、いやあれは自宅じゃないんだとそれは世帯主を奥さんに変えてるからあそこは自宅じゃないのかもしれないけど、そこに月2回平均帰ってて、それをまずありきで公務日程組んでるから、どうしても県内にいないことが多いとか、そういうこともあって、結構県庁の組織が緩んでるんじゃないかという言い方もできるわけなんで、その辺は、議長は全然議会の立場でご覧になって、お感じにならないですか。

(議長) 知事におかれては、私から家庭事情までは中に入ることは控えますけれども、できるだけ県庁内での会議の時間、それから、県内各市町への円卓会議に参加してもらうように、今、指摘を受けてかどうかは別として、積極的に日程調整に入っていると伺ってますし、先日、名張にも来られましたし、それぞれ時間を取っていただいているのかなと感じはしますけれども。またお会いしましたら、もっともっと地域に出向いてくださいねというのは、申し上げたいと思いますけどね。

(質問) 前もその辺のことは、一度また機会があれば申し上げるって、この会見でおっしゃいましたよね、議長は。今日の会見じゃなくて、今までの議長会見の中で、中森さんが5月に議長になられてからの会見の中で、似たようなことをお聞きしたときに、知事の方には機会あれば助言するみたいなことおっしゃってたじゃないですか。それは何か話すことは機会あるごとにあると思うんですけど、この前の自民党の政治資金パーティー政経セミナーでもいらっやいましたし、そういうのからいくと、そういうことは今まで話したこと、おありにならないですか。

(議長) 会うたびっていうのか、会う機会においては、直接よく似た話はたびたびさせていただいてます。よって、その影響という失礼ですけども、感化していただいて、名張にも来られたり、あちこちでパフォーマンスされてますので、結構動き出したなと私は感じてますけども。

(質問) 若干効果は感じられると。

(議長) はい。

(質問) 副議長はいかがですか。

(副議長) 私もそのように思っております。それから、議会との距離も遠いのではないかというお話ありました。そのあたりもご努力されているように捉えております。

(質問) それは就任2年経って、次の知事選が2年後に迫ってるから、何となく出るつもりでシフトしてきたって感じはするんですけど、そういう感じなんですかね。

(副議長) いや、どうなんでしょうか。ただやっぱり議員もそうですし、県民の皆さんと、現場に直接出向いて見聞きすることがやはり重要だということ、改めて実感しておられるのではないかと思います。

○知事について

(質問) 10月に熊野の河上市長が知事と懇談されたときに、少なくともこんな首長たちと距離があったら、次の2年後の知事選はもうないよと言って、そしたら知事は次の日から桑名の伊藤市長とか鈴鹿の末松市長に電話かけて、ぜひ懇親したいというふうな、急に電話をかけられたりしてるんですけど。それとか、6月に県市長会の会長が鈴鹿の末松市長から津の前葉市長に代わられた時に、その会長就任挨拶で前葉市長が、こんなに市長会と距離のある知事で、このまま知事がこの手法を変えないんだったら、もうこれから市長会としては、要望等は副知事の方に行くと。会長は何度かやられてますけど前葉さん、その新任会長挨拶でそういう事おっしゃったことは、いかにその知事と県内首長たちとの距離があるかっていう表れだと思うんですね。その辺は議会としては憂慮しないですか。議長いかがですか。

(議長) その件につきましては、前葉市長には少しこんな話を耳にしたんですけどもどうでしたのかなというような感じでお聞きしたら、いやいやそんなつもりで言ってないんですよ、ちょっと流れでそうなっちゃったんですよということで弁明してましたので、そんなことはないように、推薦する推薦しないは別の話ですけども、接点というかこれからも知事に関するいろんな対応を、こ

れまでもそうですけど、これからもやってもらわなあかんのちゃいますのって言ったら、当然それはもちろんそうですわとおっしゃってましたので、どなたから聞いたとかいうことは言ってませんが、そういう話は、前葉市長さんとさせていただく機会がありましたけども、それは公式の場ではありませんけどね。

(質問) だからそういう溝っていうのは、実際お感じにならないですか。例えば、名張市長とはある程度じっこんじゃないですか、議長が。名張は今回2回目ですけど、本来令和4年の時に前の市長の時に、第1号で円卓対話行ったのが名張市なんですよね。今回、名張だけ2回目なんですよ、北川市長で。だから、そういう意味では名張にある程度、議長が出身地だからある程度気使われてる部分もあると思うんですけど、他2回やってないですからね、28市町は。そういうことも含めて市長ともいろいろお話になると思うんだけど、そういう溝っていうのは、議長はお感じにならないですか。

(議長) そもそも溝があるとかないとか、それは置いておいて、やはり私が議長してるから名張がどうかということ、それは私は関係ないと思いますよ。当然、前市長から現市長に変わったということはやはりありますので、2回目といえども、それぞれの市長の顔が違いますので、やはり前市長の今までの流れ、それから現市長、北川市長の考えについては、知事からすれば、1回目と同じような気持ちで来られたと私は理解してます。

(質問) それは名張から見たらそうだけど、どの首長が言ったとは言いませんけど、中には、うちはまだ1回もしてないのに名張さんは2回やったっていうふうな言い方をされる方もいるんでね、それは当然いますよね。そういうのからいくと、やっぱりその辺も含めて、人柄はいいのか何か分からないけど、あまりにも細かい配慮が足りない感じもするんで、執行部と議会が車の両輪ならば、そここのところをある程度言われる資格があると思うんで、政治家としての経験は議長のが長いわけですから。向こうは全く政治家では素人さんなんだから、本人も、役人でも知事はできるとまで言い切ったわけですからそういうことです。

(議長) 知事も、もっともっと、たまたま名張の話出ましたけども、やはり日程を精一杯調整していただいて、できるだけ多くの県内の市町に出向いていただけるように期待をしたいと思います。議会としては知事の日程まで調整はさすがにできませんので、また間接的に何かの機会にお声掛けをさせていただいたらと思います。

(事務局) 一点、事務的に補足をさせていただきます。先ほどマニフェスト大賞につきまして、優秀賞として40の取り組みということを申し上げさせていただいたところですが、8つの部門に5つごと選ばれまして、三重県議会といたしましては、その中の議会改革賞の部門の5件の中から最優秀賞をいただいたというところでございます。

(議長) これで終了いたします。

(以 上) 11時15分 終了